



放課後等デイサービス 利用控え家庭への支援

資金分配団体：一般社団法人日本サードセクター経営者協会

実行団体：特定非営利活動法人くまもとスローワーク・スクール

期間・目的・対象地域

- 期間

2020年10月～2021年7月末

- 目的

新型コロナ拡大で、各家庭の情報格差・経済格差・つながり格差が露呈され、家庭が抱える新たな不安を少しでも減じるため

- 地域

熊本県荒尾玉名地域

背景

1. 当法人が運営する放課後等デイサービス利用家庭の3分の1（15軒）がひとり親家庭、ステップファミリー
2. その家庭の母親は①正規雇用7名、②非正規雇用4名、③障がい者雇用2名、④うつ病治療中1名、⑤生活保護受給1名→新型コロナ禍で子育ての負担↑、経済的不安↑
3. 上記15軒以外の家庭は影響は少なかったが(1)利用児が喘息など基礎疾患、(2)コロナへの過度の不安、(3)ワクチンが定着するまで利用しないなど→放デイ利用自粛が頻発

実施したサービス

1) 社会福祉士によるアウトリーチ型ソーシャルワーク

家庭内暴力・子どもへの心理的虐待のおそれ、母親の精神的健康を支えるため訪問面談実施、子どもの情報を学校へ共有

2) 作業療法士による親コーチング型運動療育

事業所に親子で来所、家庭でもできる姿勢保持の練習・手先の操作性練習・体幹トレーニングの個別指導実施

3) リモート茶話会

障がいを持つ児の母親2～4名/回がコロナ禍にある特有の苦労を共有する場を設定

実施の様子



経過

実施したサービス	受益者数	結果
1)社会福祉士によるアウトリーチ型ソーシャルワーク	利用家族のべ24家庭 利用学校のべ7校	①対象児へ心理的虐待が窺えたため、複数回に渡る訪問となった ②養護教諭や特別支援教育コーディネーターなど複数に情報提供が出来た
2)作業療法士による親コーチング型運動療育	利用家族のべ54家庭	外出機会が減る中、安心して動ける場、人を気にしないで動ける場の提供、そして専門家からの励ましが保護者のストレスを減じることが出来た
3)リモート茶話会	参加家族のべ19家庭	一同介した茶話会よりも、リモートの方が気軽に参加できたと好評を得た

今後の展望

利用されたご家庭、支援者の言葉から

家庭「疲労感がある、短時間でも1人になりたい。家庭の状況を冷静に判断することが出来ない状況だった。話を聞いてもらい、方向性が確認できた」
学校「医療機関にも頼れない状況。日ごろから知っている先生に相談でき、今後への希望が持てた」

支援した立場(社会福祉士)「近くに住む親せきが居ても、家族の問題だからと頼れないことが多い。家族の中で解決しようとしても、なかなか前に進まない。まずは母親が元気を回復し、判断できるだけの状態に持っていき、誰に何をどう役割分担していくかを考える余裕も持ってもらいたかった」

今後) 新型コロナ禍で、負担は増え、他者との接触・対話が減る中で、見えない疲労がたまり、自分の考えに固執してしまう親御さんが増えた。そこで安心して話せる他者とやりとりする中で、親御さん自身の考えややり方を客観視し、自分が本当はこうしたかったという思いに到達頂く必要がある